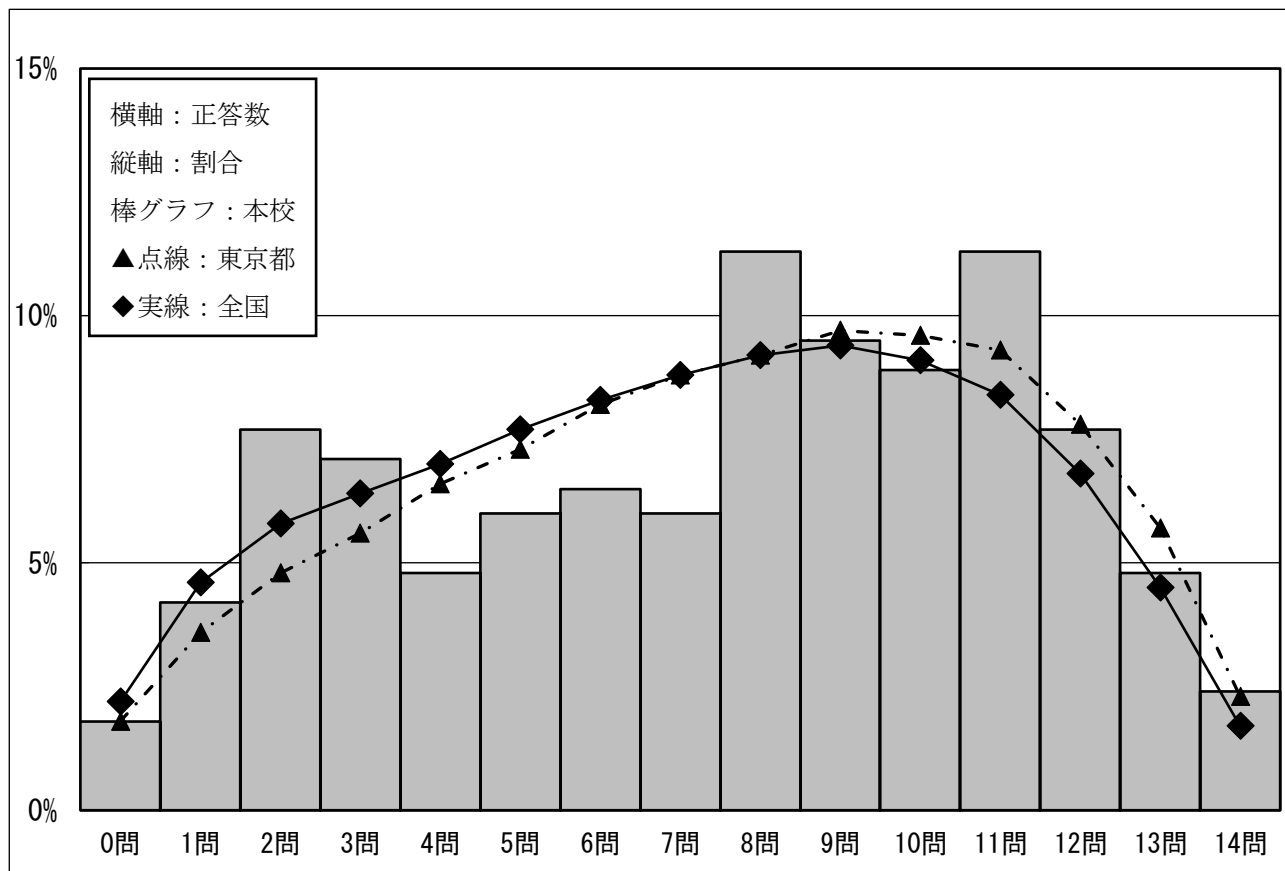


令和4年度 全国学力調査（中3対象）の結果より

数学



学習指導要領の4領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」）の平均正答率において、「数と式」、「資料の活用」の領域で全国平均、東京都平均ともに上回っています。

「数と式」の領域では、「自然数を素数の積で表す問題」「問題場面における考察の対象を明確に捉える問題」、「資料の活用」の領域では、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題」において、正答率が高くなっています。

一方で、「図形」の領域では、「反例の意味についての問題」、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題」において、正答率が低くなっています。

推測した事柄を考察する場面では、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する力を育成することに力を入れていきます。また、事柄が常に成り立つことを説明するだけでなく、常に成り立つとは限らないことも説明できる力の育成も心がけていきます。